

りんご「ふじ」成木における果実品質を考慮した窒素施肥

【1 成果の概要】

- (1) 適正な樹勢を維持できる窒素施肥量で施肥管理することで、窒素施肥量が多く樹勢が強い場合よりも地色や着色、着色割合の向上は早くなり、蜜入り程度の上昇も早まります(図1、2)。
- (2) 樹勢が強い場合、地色や着色面の品質向上が遅く、収穫期の果実品質は適正な樹勢の場合よりも劣ります(図2、3)。

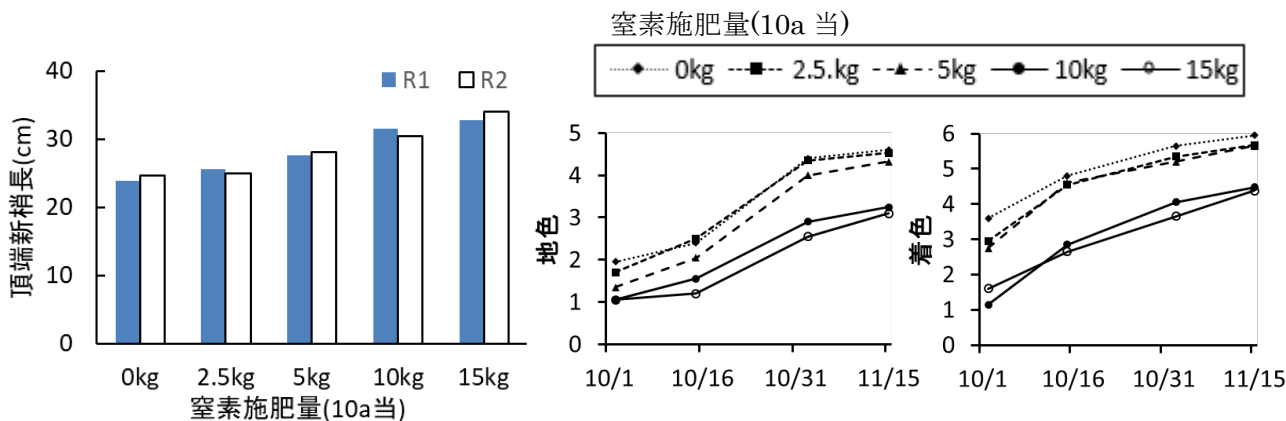


図1 窒素施肥量と頂端新梢長の関係

樹勢が適正な場合の頂端新梢長は、20～30 cmの範囲です。

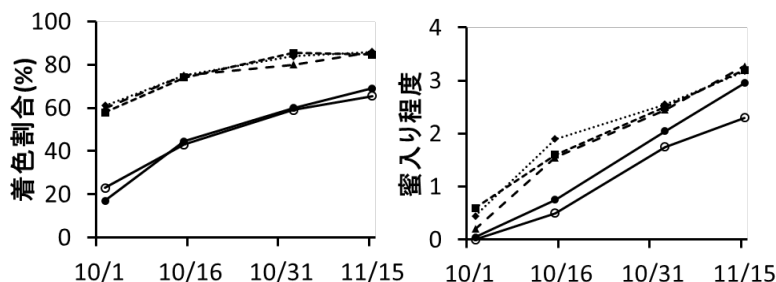


図2 窒素施肥量の違いによる果実品質の推移の差 (R2)



図3 収穫期における果皮色の違い (R2)

【2 活用上の留意事項】

- (1) 本成果は農業研究センター内で実施した結果に基づいています。適正な樹勢となる窒素施肥量は圃場によって異なるため、施肥量は樹相診断を行って調整します。
- (2) 極端に窒素施肥量が少ない場合、収量は低下する傾向を示します。